

# 北小魂



【めざす学校像】 5つの気がみなぎる学校

～魅せろ 北小魂!～  
勇気と希望をもって  
新しい時代を切り拓け

## 自分と違う意見に耳を傾け、様々な視点で考える

校長 小峯由起子

コロナ感染症対策に気を配りながらの2学期スタートとなりました。子供たちは、生活委員の大きな挨拶に応じて、「おはようございます」と笑顔で登校してきました。高学年が低学年に「大きな声であいさつね」と声をかけている姿もありました。教室では、久しぶりに友達や先生に会えてうれしい様子と生活のリズムが大きく変わりちょっとそわそわという様子がみられました。

始業式では、まず「夏休みの間に気になることや心配なことがあったら、周りの大人や先生に相談して欲しい」という話をしました。県内でも中学生の大きな事件がありました。子供の心の中まで読み取るのが難しいこともあります。先生方にも子供のしぐさや言葉から察すること、子供との会話や言葉・日記などから子供の様子を確認してもらっています。また、「自分と違う意見に耳を傾け、様々な視点で考え、2学期の行事で力を発揮しよう」と話しました。話の中で、「考える力が育つ 20の物語」(石原健次著、矢部太郎絵)の本を紹介しました。子供たちがよく知っている20の童話を色々な立場から考え、ちょっと違う視点から見ることにも必要という内容でした。紹介したのは「ウサギとカメ」のイソップ寓話、カメのようにコツコツ頑張れば、ウサギに勝つこともできるという教えとしてよく知られています。筆者は、違う視点からこの話を見ると、ウサギの「のろま」という言葉にカメがムキになって、カメの方からかけっこの勝負を挑むのは危険な判断だったのではないかということです。「もしウサギが寝なかったら ウサギに勝ったのは偶然」とも考えられる。誰かにばかにされてかっとなったとしても、その感情に支配されない。相手の言葉に反発するだけでなく冷静に考えることが大切。相手は自分に自信が無いから、人をバカにして上に立とうとする。相手にするだけ無駄。そういう時は自分のよいところを思い出し、もっている能力はみんな違う、個性なんだと考えよう。とこの本は締めくくっていました。人には、それぞれの立場や考えがあり、誰もが自分が正しいと思っている。けれど、大事なのは、自分でない誰かの立場、違う視点でも考えること。一つのことを色々な角度で考える力が育つと羽生北小学校は強くなれると伝えました。

2学期の児童の抱負では、3名の代表児童がこんな学期にしたいと意気込みを発表しました。自分をよりよくするために、学級・学校をよりよくするために頑張りたいことを発達段階に応じて具体的に考え発表する姿に、大きな成長を感じうれしくなりました。

これから新しい時代を切り拓いていく子供たちには、自分の意見を持ち、他の人の意見を取り入れ、様々な角度からよりよい考えを導き出す力が求められています。2学期の行事林間学校 修学旅行 運動会 いちよう祭りや授業の学び合い、学級会での話し合いでの折り合いの付け方等を通して、「自分と違う意見に耳を傾け、様々な視点で考える力」を身に付けていきます。

加えて、私たち教師集団も地域の方や保護者の方の意見に耳を傾け、色々な角度で考えることの大切さを改めて感じました。2学期も宜しくお願いたします。



<登校の様子>



<始業式 リモートで実施>

